

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200457	事業の開始年月日	平成13年7月1日	
		指定年月日	平成20年7月1日	
法人名	有限会社 横浜ソフトケアサービスセンター			
事業所名	フレンディ本宿			
所在地	(241-0023) 神奈川県横浜市旭区本宿町18-14			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果 市町村受理日		
			ユニット数	1ユニット

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、管理栄養士が作ったメニューに従い、健康面は、特に注意をして提供しています。ホームの前には、小学校のグラウンドが正面に見え、いつも子供たちの元気な声が聞こえています。すぐそばの公園は、春になると桜でいっぱいになり、季節を肌で感じて頂けます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月3日	評価機関 評価決定日	平成23年4月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩約10分の「本宿小学校」の目の前に立地している。この町内では唯一のグループホームである。近くには桜の古木がある広場や公園・神社などがある。建物は既存建物を増改築したもので、1階に食堂・居間・浴室などの共用スペースがあり、2階に居室が集約されている。 【運営体制】 法人は当ホームの隣で小規模なデイサービスを運営しているほか、グループホームなどを運営している。法人全体の職員総会(年2回)や、事業所の職員会議では社長等が3ヶ月毎に出席するなど、代表者・管理者・職員の距離は近い。平成22年11月に管理者が変更した。 【利用者への姿勢】 利用者第1主義と心のこもったサービスの提供を掲げ、独居や身寄りのない方の入居も受け入れている。食事やお茶が終わった後に、職員と利用者がゆったりとした会話を10分程行うこととしている。また、食堂や居間などでの職員・入居者間のコミュニケーションを重視し、居室でのテレビ設置を遠慮して頂いている。 【食事】 献立や食材の調達を職員が行っていたが、利用者との接触時間を増やしたいなどの目的から昨年より業者委託に切り替えている。食事は野菜が中心のヘルシーメニューである。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	フレندي本宿
ユニット名	フレندي本宿

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	更衣室に理念を掲げ、いつでも目に付くようにしている。	法人の理念とは別に、ホーム独自の理念のような介護者として守る法則、心得などの決め事がある。理念などは更衣室に、月間目標は居間に掲示されている。管理者は会議等で日々の実例を題材にして理念の浸透を図っている。	本年は、開設満10年を迎える節目の年であり、その間にホームをめぐる法や環境なども変わっており、さらに理念を含めた決め事が各種あるので整理して、新たな理念などの策定を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催しに出来るだけ参加して、交流を深めるよう努めている。	本宿町東部自治会に加入している。地域の情報は、回覧板や運営推進会議の中で得ている。地域行事にはどんど焼きや公園の清掃等に参加している。ボランティアの訪れは少なく、ホームの活動も地域に浸透していない。	町内で唯一のホームであることから、地域にホームの運営状況・果たしている役割や地域ボランティアの参加呼びかけなどについて、積極的な発信を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症の方への理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行うことにより、意見等をサービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は4月から2ヶ月毎に開催している。メンバーは利用者、自治会、老人会、民生委員、ケアプラザ職員、ホーム職員である。会議の内容は、事業所の現況や今後の予定の報告、次回開催日の確認と意見交換が主である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に相談して、よりよいホーム作りに取り組んでいる。	旭区の高齢者・障害支援課、福祉保健センターが手続き関係の窓口になっている。運営推進会議へは万騎が原ケアプラザの職員が参加している。行政から紹介された独居や家族がいない利用者もいるので、行政との連絡・相談を密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はまだしているが、どのようにしたら、安全、安心に生活できるか等、身体拘束をしないケアに取り組み中である。</p>	<p>運営規定・契約書に「身体的拘束その他利用者の行動は制限しない」と明記され、その内容の職員研修も行い、忠実に実践している。地域や家族などからの防犯の呼びかけを受けて、玄関の鍵をかけ始め、現在も続いている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、ホーム会議などで話し合い、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>後見人などについて、市町村担当者と相談したり、研修に参加したり、活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族等の不安や疑問点に対し、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者家族等の意見、要望を運営に反映させるように努めている。</p>	<p>家族が面会に訪れる際は、家族の要望等を把握するために、時間を取って話し合っている。家族の面会が無い場合は、ホームから家族の電話連絡をして、利用者の状況報告をするとともに、家族の意向等を聞いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ホームミーティングを開き、職員の意見を聞いている。	年に2回のヘルパー総会や毎月のホームミーティング(職員会議)には3ヶ月毎に法人の社長が出席し、管理者や職員と話し合う機会がある。その会議の中で、食材の調達方法の改善について提起され、献立と食材配達を業者委託に変更している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って、働けるよう環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等、受けることを勧め、機会の確保に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修などを通じて、同業者との交流をし、質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどのような生活を望んでいるかをよく聞き必要なサービスを行うことにより、信頼関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談、要望には耳を傾け、信頼関係を作るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを提供する事が、ご本人、家族にとって一番良いかを一緒に考え、支援するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けをして、日常生活の全てに参加する事により、共同生活を送る者同士の関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、面会を促し、訪問時、ご本人とだけでなく、職員からの方法も得て頂き、良い関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前は、手紙、TEL等にて支援をしていたが、現在は行っていない。要望があれば、行う準備は出来ている。	外出支援の際に、「思い出のある場所に似ている」など利用者が話した内容を記録し、再度その場所に誘い、思い出が再現できるような取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係により、食事の席替えをしたり、ソファーに移動したりして頂き、支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、契約終了後もホームを訪ねてくださるご家族もあり、お互いに負担にならない程度のフォローに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望、意向を把握し、困難な場合にも、どうするのが、一番良いかを検討している。	独居で家族等がない利用者が、行政からの打診により入居するケースが多い。生活歴や思いなどの当初の把握が十分出ない場合もあるので、日常の会話の中から、収集できたものを整理して、職員の共有に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを取り、個々に話を聞く時間を作り、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時のバイタルチェック、食事摂取、水分量等、記録し、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>より良い介護計画を作成する為に、利用者の小さな変化についても職員、ケアマネと常に話し合っている。</p>	<p>利用者・家族の意向、協力医療機関の医師や看護師などの助言と、職員が利用者の様子を記入している評価表などで意見を交わし、ケアプランを作っている。ケアプランを作るに当たっては、専門用語でなくわかりやすい表現を心がけている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気づきを共有し、実践や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一人一人の観察を常に行い、その人にあったサービスを提供できるように努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>豊かな暮らしを楽しんでいただけるように、心身の力を把握し、安全に過ごせるよう支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関である主治医や歯科医の往診は月2回ある。歯科衛生士は毎週訪れ、口腔ケアをしている。協力医療機関以外の医療機関(脳外科、皮膚等)に受診している方もおり、受診の際は職員が同行している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>情報や気づきを看護師に伝え、常に相談を行い、適切な受診を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>現在入院中の利用者がいない為、病院関係者との関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>いつでも対応できるよう準備に取り組んでいきたい。</p>	<p>入居前に終末期対応をしない旨を家族等に説明し、入居時の契約書にも記載している。入居後は利用者の状況をみて、家族との相談をしたり、行政や医師の助言を受けて、病院などへの円滑な入院に努めている。看取り実績は無い。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、応急手当や訓練を定期的に行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を継続して行い、運営推進会議を通し、協力体制を築いていきたい。</p>	<p>1月の消防署の立ち入り検査では、平成24年3月末までに消防機関に通報する火災報知設備の設置を指導されている。避難訓練では夜間の対応が課題となっている。非常用食料、水などの備蓄はされていない。</p>	<p>消防署の指導の防災装置を設置するとともに、非常用食料品などの備蓄のほか、非常時に地域の協力を得られるような働きかけを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保に十分注意した声掛けや対応を心がけている。	プライバシーに関しては研修も行われ、実践では利用者の過去のことについては、本人が述べる以外には聞かず、個性に応じてゆったりと会話をしている。目の障害のある利用者には注意深く見守り、変化があれば耳元で小声で話すなど特に注意を払っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に自己決定ができるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースに合わせ、一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を個々の能力に合わせ、楽しく食事ができるように配慮している。	献立、食材、レシピは業者に委託し、調理はオープンキッチンで職員が行っている。利用者が入居時より体重が増加していることもあり、献立は野菜の多いヘルシーメニューを多く選択している。利用者と職員は同席して食事をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全部食べれる喜びを感じて頂くため、その人に合わせた食事を提供している。水分量確保の為、好きな飲み物の提供を行っている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の歯磨き、歯科衛生士による口腔清掃を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個人の排泄パターンの把握をして、個々に誘導声掛けを行っている。</p>	<p>全介助が1人、一部介助が2人、自立が6人である。おむつの方はいない。介助が必要な方には、排泄表を参考に時間や表情等から、さりげなくトイレに誘導し、自立排泄に向け支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>朝の冷たい牛乳等、腸の働きを活発にする工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日などを決めずに、その日の状況で入浴者を決め、入って頂いている。</p>	<p>利用者は週に2回、午前(10時から)と午後(15時まで)の時間帯で入浴している。入浴時間は1人につき約30分である。入浴が嫌いな方はいない。バスタブの湯は汚れたら取り替えることとしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の要望に沿って、生活リズムが崩れない程度の休息を取り入れ、安心して眠れるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書をいつでも見ることが出来る場所に置き、確認できるようにしており、日々の変化に注意している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>趣味や好みにより、日々を楽しく過ごせるように、又気分転換にドライブしたりと支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>なるべく本人の希望にそえるように外出の機会をもうけ、支援している。</p>	<p>外出は、無理強いをせず個人の意思を尊重している。散歩は個人やグループ毎に職員が付き添い、公園や神社をめぐる30分程度のコースを日課としている。職員が用事で外に出かけるときに同乗してもらい、用事が済んだ後にドライブをすることもある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額の現金を所持されている方もいるが、その他の方は、必要時いつでも使えるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望により、行えるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、居心地良く過ごせるよう、配慮している。	建物が北傾斜の斜面に立地し、北側にある小学校が良く見え、見晴らしは良い。ただ、南側に住宅の建築予定があり、日照などが心配されている。利用者の作品や写真の貼付、花なども無く、生活感・季節感に乏しい現状である。	季節感や生活感を出すための工夫に取り組むことが期待される。
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでテレビを見たり、2階のソファで一人で座っていたりと、工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具、椅子等を配置し、心地よく過ごせるよう、工夫している。	居室には防災カーテン、照明器具、エアコン、クローゼットが備えられている。個人の持ちものはベッドが主で、持ち込んだ物品は少ない。テレビは居室にこもりがちになるため、持ち込みを控えてもらっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階の階段には、手すり設置あり、危険防止となっている。両手で両方の手すりにつかまり、安全に自立できるようになっている。		